

CREST症候群による重症手指虚血に対し上腕動脈から手掌動脈弓への遠位バイパス術により救指した1例

京都府立医科大学 移植一般外科

中村 緑佐（なかむら つかさ；34歳）

増田 康史, 昇 修治, 原田 俊平, 大坂 雅史, 松山 剛久, 牛込 秀隆, 吉村 了勇

手指虚血はCREST症候群の重大な合併症である。腎不全を伴い血液透析が必要な場合は内シャント造設術も困難な場合がある。遠位バイパス術は当該症例に有用であると考えられる。

症例は47歳女性，既往歴：腎移植後慢性拒絶による末期腎不全，CREST症候群，糖尿病，閉塞性動脈硬化症

左上肢血管造影検査にて橈骨動脈の閉塞，尺骨動脈遠位部での多発狭窄を認め，左示指に虚血性壊疽変化を認めた。手掌動脈弓以遠は比較的温存されていた。血行再建による救指が必要であると判断し，大伏在静脈グラフトを使用し上腕動脈から浅掌動脈弓への遠位バイパス術及び，グラフト血管一次分枝と橈側皮静脈との間に内シャント造設術を実施した（下流グラフト血流40 ml/min以上を維持）。術後6週で壊疽部は皮下組織新生により治癒した。

遠位バイパス術は下肢同様に上肢虚血治療に有効であり，かつ，内シャント造設困難症例に対して有用であると考えられた。